

弘前で「ゆきナビプロジェクト」

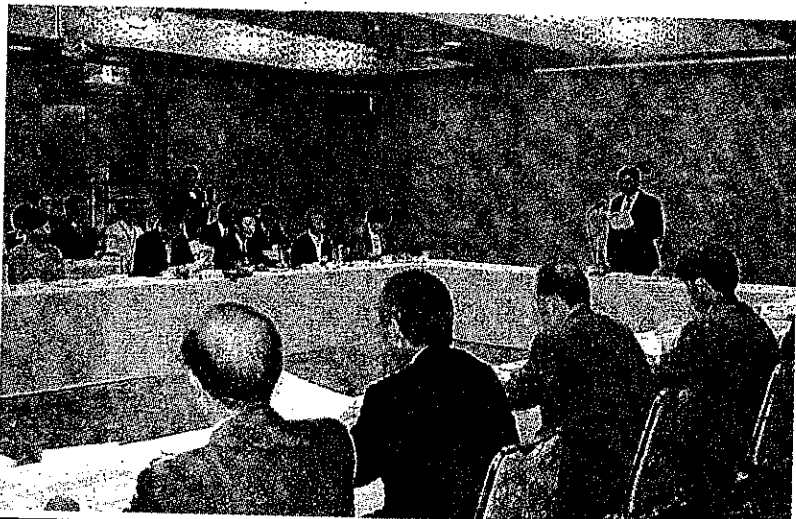
バス運行情報提供

イベントと連携も

市内3カ所で実験

歩道などにICタグを取り付け、高齢者や身障者らが冬場でも安心して移動できる環境づくりを推進する「ゆきナビプロジェクト」の実証実験が今年度、弘前市内で行われることになる。二十四日、同市でプロジェクト推進委員会が開かれた。昨年度の実験結果を踏まえ、積雪地でのより最適な誘導手法を検証するほか、ニーズが高いバス運行情報の提供も試みる。また、バス停周辺の店舗などの情報提供や冬季イベントとの連携も模索し、利用しやすいシステム構築を目指す。

同プロジェクトは、国 冷地でのシステムの在りの自律移動支援プロジェクトと連携して、積雪寒 への活用可能性を検討



弘前市内で行った実証実験の内容を
検討した委員会

昨年度は青森市中心部の柳町通り周辺で実証実験が行われたが、今年度は、国土交通省が弘前市など全国八カ所で実験を行う計画。

二十四日に弘前市内で開かれたプロジェクト推進委員会では、今年度の実証実験を来年一月下旬から二月中旬にかけて、弘前市役所周辺、土手町、弘前公園の三つのエリアで行うことを確認。

昨年度の実験による課題を踏まえ、主に①積雪環境下での最適誘導手法の検証②移動の快適性を図るための情報提供③地域の情報提供体制と連携したコンテンツの運営④システムの社会的効果の把握の四点を中心に実験を行うこととした。

昨年度の実験では特

に、冬期間の主な移動手段となるバスの運行情報のニーズが高かったため、バスの到着時間の遅れなどを知らせる情報提供手法を検討する方針。

また、手袋を着けたまままでの使用も容易な携帯端末の在り方や、弘前市は本県を代表する観光都市であることから、他言語による地域情報などの提供も試みる。

冬季イベントに関して、弘前公園で二月に行われる弘前城雪燈籠まつりでの活用を試みる計画

だ。

委員会では座長の蝦名武副知事が「弘前市は実験を行うのに格好の条件を兼ね備えている。昨年以上に有意義な実験にしたい」とあいさつ。

出席した委員からは「視覚障害者が利用しやすいシステムを構築してほしい」「バス情報は時間の遅れが分かる仕組みを目指すべき」などの意見が出され、県は「昨年の課題を解決するような実験にしたい」と述べた。

委員会は十一月ごろに開く第二回会合で実証実験の具体的な計画をまとめる。